



東京会工会だより

No. 4

平成14年4月20日発行 東京会工会事務局 川崎市中原区上平間2079-1(ニッポ一産業(株)内) TEL044-544-0811

東京会工会の改革と目的

東京会工会会長

赤 津 仲 雄

(25年C卒)



四国にいくつかの海峡橋が架けられた。建設投資額は、遠い夢の様な金額である。投資消却に三、四十年かかるだろうはよいとして、それに見合う収支効果があればよいのだが、それが無いという。そして、再生産性の不足は、国が負担する。

国立・県立といった大きな構築物・施設は、土・日や祝祭日にはそれなりに賑やかであるが、平日はまず閑古鳥である。それでも維持運営には、人が居て、電気・水・電話・冷暖房等が消費されている。こんなことが積み積もって、日本国の借金は、国債が約三百九十兆円になり、その他の負債を加えると約六百七十兆円になるといふ。赤ちゃんも含めて、日本人一人一人が約六百万円以上の借金をしていることになってしまった。

経済は、収入と支出・分配のバランス関係のあり方を位置づけるもので、政治・政策の殆どがここに起因している。戦後約五十年間、日本は自由経済・資本主義を旗印に、好不景気に一喜一憂し、そして、世界の経済大国になった。不景気になれば、官業というものに起債して市場を刺激し、市場の活性化を計って来た。好景気になれば、その度に生産性の向上に喜び、経済力の増強に自信を付けて来た。しかし、このくり返しが通用しなくなった。

マスコミはうまい言葉をつかう。泡ははかなく消えるものと思っていたら、バブル経済がはじけるのである。表面張力の強い良くない泡であろう。

うまくいった同じ事を繰り返していると制度が生じる。スムーズに順応する様な機構になってくる。そして、国という名目の借金が増えていく。

文藝春秋三月号に、経済ジャーナリスト東谷暁氏が「不吉な酷似」のタイ

トルで小泉改革が米国大統領のルーズベルトの過ちと余りにもなっていると論じている。一九二九(昭和四年)ニューヨーク株式大暴落をきっかけに始まった米国の長期不況は長期に及び、回復したのは戦後の一九五一(昭和二十六年)だった。一九三三、大統領に就任したルーズベルト大統領は、ただちにニューディール政策を実施して、景気回復につとめたが、政策のタイムイング・舵取りが的を射なかったため、小さい好不況の谷間をくり返しながら経済の回復に二十数年もかかった。この様なことは、今の日本には許されない。日本は工業技術立国を目標として、ほぼ目標に達した。お金の使い方が下手であるために苦しんでいるようなものであるが、それにしても、先行きが見えず、長くて暗い不景気が続く。

東京会工会にとって、いつかは解決を図らなければならない懸案があった。東京会工会の構成員とは何かと言うことである。通常、会という目的集団は、構成員の定義と義務と権利があつて、決議に基づき執行で目的を達することになっている。

会津工業高等学校を卒業して、東京近辺に住んでいる人と言っても、本人の入会意志表示があつての会員は少なかつた。そのため、東京会工会会員資格者を含めて会員扱いしていたわけである。しかしながら、総会案内状の発送に對しての苦情の電話やその他の意見の考慮、また、往復葉書代二十万円、発送先の選択から宛名書きの労力など、それらに対応するべく思案を繰り返して来た。その結果、東京会工会の入会を確認し、年会費制を導入することに一昨年意見がまとまり、昨年からは実施した。会員は卒業生名簿数から見ると数%であるが、実体が明らかに活動目標が具体的になって、それなりに運営が期待できるようになった。

事務処理は電算機の導入が有効な方法である。この件は、会員から協力の申し出があり非常に助かっている。事務所・事務員の件も会員のお世話になっている。

本校は今年創立百周年になり、十月二十六日、会津若松の本校で記念式典がある。東京会工会でもまとまった参加を計画している。多くの会員の方々に出席して頂けることを心から切望している。

東京会工会の充実発展を祈願



同窓会会長

吉田 一栄

(20年K卒)

東京会工会だより発行、本当におめでとうございます。本会を維持発展させ、今回『東京会工会だより』を企画された方々のご苦勞に対して、心より感謝申し上げます。

私も昭和五十五年より会津工業高校同窓会の会長をお引受けしてから、はや二十数年の月日がたちました。以来、東京会工会の総会には、ほとんど毎回万障くりあげて参加して、会員の方々と親しくおつきあいさせていた。だき、本部同窓会の状況をご報告できたことをお礼申し上げます。

東京会工会の創立は、明治四十四年、第一回卒業生、植村寅夫氏を中心とした十二名が集まり、同窓会を結成したのが始まりと聞いております。会津の地で青春時代に同じ学び舎で学んだという同窓意識のもと、遠くはなれた東京で手をつなぎ親ばくを深めあい、共に発展して、さらには母校の発展に寄与できたらと、結成されたことでしょう。その熱気を今さらごとく感じます。その後、終戦後の混乱期をのりこえながら、創立以来九十数年を経られたことを誠に喜びにたえません。ここまで維持発展させた関係各位に対してお礼申し上げます。今や、東京地区に在住する同窓生は数千名というかなりの数にもぼり、会員の組織化は無限になつておると聞いております。日本列島はバブル崩壊後、悲しい出来事

が相次ぎ、心の喪失が叫ばれています。本来、この様な時代だからこそ同窓会が益々発展しなければならぬと考えております。今年、母校はいよいよ百周年を迎えます。この節目のときにあたり、同窓会を中心とした百周年記念事業として同窓会館の建設記念式典などが企画されております。

東京会工会の皆様には、この記念事業のために多くの方々から募金いただきましたことお礼申し上げます。しかし、まだ目標中でありまして時節が大変だと思いがすが、さらなるご協力のほどお願いします。東京会工会の皆様のご健康と会のますますの充実発展を祈願して挨拶と致します。

《同窓会会長 吉田一栄氏(20K卒) 勲五等瑞宝章受賞される》

春の叙勲において「地方自治の振興と住民福祉の向上」に尽くした功績により勲五等瑞宝章を受賞されました。(編集委員会)



百年の歴史



東京会工会幹事長

金子 昌輝

(35年A卒)

会員の皆様にはご健勝にお過ごしのことと拝察致しております。会報発行をお祝いし併せて関係各位のご苦勞に厚くお礼を申し上げます。

会津工業高等学校も、創立百年を迎えました。これは一世紀という、長い年月を経て、教育文化活動を通じ人材育成に努め、社会に貢献してきた結果であり、一大金字塔を打ち立てた事になります。そして現代も、連綿として続いており、益々教育スポーツにと発展しているさまを見る時、改めて感動が湧いて参ります。誠に目出度い事で、東京会工会も九十年と成りました。会の話に入る前に、百年の間に、世相はどの様な、移り変わりをしてきたのか、単なる私の思いつきであります。振り返ってみたいと思います。

維新後の無骨な明治の終わり頃、文明開化を唱い、富国強兵策を採る、鹿鳴館に代表される華やかな外交文化を形成し、やがて竹久夢二に観る、モボとモガの世界を演出する大正時代を経て、戦争の昭和へと移っていきました。そこでは且つて経験した事のない悲惨な敗戦を味わいます。しかし、戦後復興は目覚ましく、世界一の経済大国となり、停まるどころのない景気は、バブルという言葉まで生み出しました。そして『平にして成る』といわれた、平成の時代に移

つたのです。

今、バブルは崩壊し、頼みのIT産業も不振で起爆剤にはなりません。円安株、債券のトリプル安に依る不安がデフレスパイラル現象を産み、産業の空洞化で不況の時代を迎えました。銀行や大手一流会社でも倒産する時代です。更には貸し倒れ貸し渡りで企業は縮小合併に奔り、リストラ、解雇を拵げております。

こうしてみると、百年の変遷が如何に長いか解ります。会津工業高等学校百年と併せ、世相を私見でみてみました。

本校百周年記念事業として、皆さんにもご協力を頂いている同窓会館建設、開校誌発行など計画が一杯あります。

百周年は風雅堂で盛大に行われます。東京会工会会員が、大挙して参加すれば、良い記念になると思われ。執行部で計画を練っておりますので、御期待下さい。

扱って東京会工会も昨年、会が始まって以来という会へのアンケートを行いました。不安が混じる複雑な気持ちで出した結果、四百人程の会員入会者がありました。卒業生が、いつでも自由に会への出入りができるよう配慮しておりますので、未入会の同級生・友人を是非お誘い下さい。

グローバルゼーションによって、かけがえない、我が国特有の伝統文化「わび」「さび」「ものあわれ」ふるさとという感情を失わず、「暇」と「閑」を味わうゆとりある心も必要です。ふるさと、母のこころを想い出させる『会工会』。いろいろな行事を通して、懐かしみ、慈しむ心をつ返も持ち続けたいものです。

母校百年、東京会工会九十年の長い歴史を継続していく時、つくづくと思うこの頃です。

創立百周年を迎えた母校の近況

福島県立津工業高等学校 教頭

渡辺 秀雄

平成十四年度は皆様の母校である会津工業高等学校が創立百周年を迎え、すばらしい歴史と伝統に、また新しいページを加えていくこととなります。

平成十三年度の卒業式には、菅家忠平様のご臨席を賜り、盛大に執り行うことができました。また、社会の変化・少子化などの流れの中で電子科が閉科、平成十四年度からは七科八クラスで進行いたします。

ここで平成十三年度からの母校の百周年関係行事の状況・大会等でのすばらしい実績などを紹介いたします。

○記念式典
日 時 平成十四年十月二十六日(土)
午前九時から正午まで

場 所 風雅堂

○同窓会館建設

建設場所 講堂跡地(正門手前の右側)

○沿革誌

百年の歴史と伝統を編纂

○記念歌の製作

記念歌の募集に対し生徒から詞の応募があり、現在、詞の補作・作曲へと準備を進めています。

○全校講話・各科での講話等

日 時 平成十三年十月三十日(火)

演 題 「会工百年の沿革を知る」

講 師 江花光泰氏(同窓会会員)

百周年記念学校行事として本校体育館で開催されました。また、各科での百周年にかかわる講話も、同窓生をはじめ、多くの

方々のご支援ご協力により実施し、全校あげて百周年事業達成に向けて取り組みを展開しています。今後ともご指導・ご協力よろしくお願い致します。

○平成十三年度の進路状況

就職関係百五十一名

・ 県内企業五十二名 ・ 自営等十四名

・ 県外企業七十六名 ・ 公務員 九名

進学関係百六十八名

・ 大 学七十二名 ・ 短期大学 八名

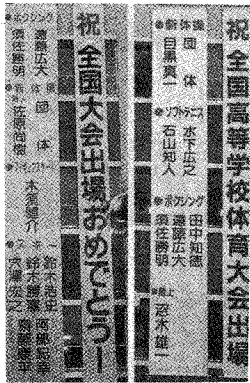
・ 専門学校八十八名

以上のように進路が決定しています。この厳しい就職状況下においても、諸先輩方の社会におけるすばらしい実績が後輩の生徒たちに良い影響を与え、三月初めの段階で就職内定率は、九十五%となっています。

資格関係では、基本情報技術者試験三名合格、X線作業主任者試験・カラーコーディネーター試験などすばらしい資格に挑戦し合格しています。

部活動においても、新体操・ボクシング・水泳などが全国大会に駒を進めるなど多くの部が上位大会に出場し、すばらしい成績を収めています。またロボット・車関係の大会など工業高校の力が発揮される大会においても上位入賞を果たすなどすばらしい活躍をしております。

創立百周年を一つのステップとして、大きく飛躍するよう努力したいと思います。



回 想



東京会工会副会長
菅家 忠平
(26年E卒)

東京会工会の皆様には、益々ご健勝にお

過ごしの事と拝察申し上げます。今年には歴史と伝統のある会津工業高校創立百周年を迎えること、誠におめでとうございます。

私は昭和二十年四月に会津工業学校電気通信科へ入学しました。戦時体制下に新設された科のため教室はあっても机はなく、長椅子が机の代用、実習設備は日立製作所からの払い下げ。また、その多くは米軍の艦砲射撃に遭って、残った設備だけでは、他科に比べ見劣りするものでありました。

私の実家は会津若松市内で、町内には工業高校への進学生がいなかったため、すこし心細く通学した思い出があります。それでも戦時中であり、学校への登校、下校、時に町で先生か、上級生にお会いすると『ホチヨウトレ』、カシラ右』これが毎日の日課

学校では勉強するでもなく、広田駅の山へ防空壕を作るための、松の丸太を学校まで二人で一本を肩に担いで運んだりしました。校庭は「畑」や「水田」と化しました。時折、上級生が教室に入ってきて、言葉の最後に『……ン』をつける話し言葉の指導。又、校庭での応援歌の指導も厳しかったです。

年月は不詳ですが、十一月に開催される会工二工祭は全校挙げてのお祭り、各科毎に斬新な作品を公開する場でもありました。電気科で関心と呼んだのは有線テ

レビの公開放送を実施、会津での白黒テレビの初公開であった。一番の盛況で何万人が訪れたことである。

電気実習の一環として、雨天体育館の照明設備取り付け工事。夏休みには、東北電力、旧電電公社へ各班に分かれての実務作業があり、蓄電池の比重計記録等、大八車にスコップ、ツルハシ、張り替えの電線などを載せて工事現場へ引いての実習であった。

楽しい事が全然無かったように思われるかも知れませんが、学友との色々な出来事等、楽しかった事は沢山あります。卒業式後、電気科職員室の隣室(旧理科備品室)に電気科卒業生に電気科長(故人 菊地巖先生)から祝辞を賜りました。その内容は『実社会に出て仕事の壁にぶち当たり苦しい時、ホームシックになったとき等、校歌に歌われる『嶺は秀づる磐梯山』を思いだして頑張る事』だったと記憶しています。

就職先は、東京に憧れておりましたので、品川区内S社に入社し、一年後には辞令なしの班長のような仕事、二年後は設計課、土・日・残業・休日出勤等の日々が続く頃

大勢の大学卒の入社、これではと思ひ芝浦工大夜間部入学、卒業後は営業、生産管理課(工程・在庫)、資材課、品質管理課、製造部、四十代になり再度営業部、設計部、製品開発本部接地技術部等、人事異動の激しい社員でありました。これも正に至誠勤

勞一筋に進む健児の意気高し、我ながらよく働いたと思ひます。後輩の方は私と同様企業戦士として毎日が奮闘の活舞台。しかし、東京会工会の会員諸氏は、何れも選り抜きの人物ばかりのため不安は無いです。

最後に東京会工会の益々のご繁栄と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

総会に思う



五十嵐 清夫 (33年K卒)

平成十三年度東京会工会の総会が恒例により、六月二十三日に上野精養軒で開催されました。

日本経済が平成不況という大きなダメージを受け、サラリーマンにとつてはリストラ台風という強烈な風雨をまともに受けて悪戦苦闘しているのが現状だと思えます。

そんな経済環境下での今回の総会は、二十一世紀への第一歩として節目の総会であると同時に、生きていく上での価値観が大きく変化し多様化して来ている中、今後の同窓会のあり方についても考えさせられた総会であったと思えます。それは、本会の三〇〇〇有余名の名簿登録者に対し、会員登録について意思確認をアンケート方式で調査を行い、継続・新規・将来加入者数を合わせると四四〇名強という、加入確認を済ませた後の総会だったからであります。

その様な中であつて、出席された一〇〇〇名強の会員の方々は、会の趣旨を理解した上で臨まれたので、ご来賓の皆様方始め旧友とも和やかに歓談され、友好の輪が広がり、今迄以上に親密感が深まった様に感じました。

終盤では、副幹事長のリードによる迫力ある応援歌を歌い、青春を甦らせ、今後の目標に向けてチャレンジするエネルギーが補給できた総会、だったと思えます。

最後になりますが、会長初め、役員皆様方のご苦勞に対し、心より感謝致しますと共に、本会に加入される方々が年々増えることを望んでいます。



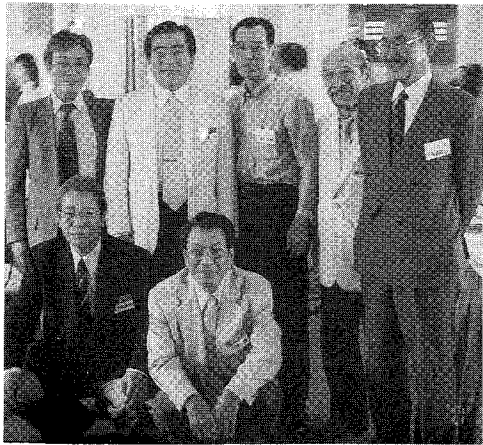
東京会工会総会

恒例の鏡割り(壇上右より)

- 近畿会工会 長谷川会計監事
- 東海会工会 水野副会長
- 吉田同窓会長
- 東京会工会 赤津会長
- 会津工業高校工 根本校長



いつも楽しい盆踊り
音頭をとるのは会津民謡社中



総会の場を借りてのクラス会はいかが？

第12回東京会工会ゴルフ会成績表

H 13. 9. 12 皆川城カントリークラブ

INスタート 9:12 快晴

	NAME	卒・科	OUT	IN	TOTAL	HC	NET	RANK	次回HC
1組	五十嵐昭夫	35A	50	49	99	15	84	16位	15
	田中 健一	42E	54	55	109	30	79	12位	30
	棚木 紹夫	35K	48	42	90	23	67	優勝	⑭
2組	鈴木 八郎	32C	49	56	105	16	89	21位	16
	目黒 道男	23T	51	51	102	20	82	14位	20
	新田 治夫	24T	54	51	105	36	69	3位	⑳
3組	室井 忠六	24T		NR		27			27
	折笠 昭	23T	50	57	107	22	85	17位	22
	鶴川平四郎	21L	55	55	110	30	80	13位	㉑
4組	角田 新作	31A	48	51	99	13	86	18位	13
	金子 昌輝	32A	51	65	116	34	82	15位	34
	角田 至啓	30A	43	40	83	新バ8.4	74.6	6位	⑪
5組	成田 正明	38A	52	52	104	4	100	22位	4
	小林 智	35K	48	45	93	新バ18	75	7位	㉒
	佐藤 功	34K	46	52	98	21	77	9位	21
6組	岡村 進	39L	44	43	87	18	69	準優勝	⑬
	金作 等	31E	45	43	88	16	72	4位	16
	秋山 利喜	27C	58	65	123	36	87	20位	36
7組	渡部 正義	31E	41	47	88	新バ14.4	73.9	5位	⑯
	小林 学	31C	49	49	98	新バ22.8	75.2	8位	26
	伊藤 孝行	38M	43	47	90	11	79	11位	11
8組	遠藤 文夫	26E	57	66	123	36	87	19位	36
	大矢 隆	31A	49	52	101	24	77	10位	24

※○印は、HC改正者

ドラコン No.6 小林 智、No.8 伊藤孝行、No.15 伊藤孝行、No.18 渡部正義
ニアピン No.2 角田至啓、No.8 目黒道男、No.13 角田至啓、No.17 五十嵐昭夫
ベスグロ 角田至啓



棚木 紹夫 (35年K卒)

生涯 現役 仕事もゴルフも楽しむ

二〇〇一年九月十二日、皆川城CCを舞台に第12回東京会工会ゴルフ大会が開催された。還暦を迎える一ヶ月前、十回目の出場は、『まぐれ』の優勝をしてみせた。初回の出場は、郷里会津の小学校から同級生である五十嵐氏(三十五A卒)に誘われた。大利根CC、広陵CC、栃木丘CCと転戦し、今回の優勝はHDCPにも恵まれた結果であった。大会当日は、又とないゴルフ日和。体調も良く会場までの距離も車で六十分以

内。諸先輩と共に楽しくプレイ出来たことに感謝したい。前半は四十二で回れたものの後半はトリプル、ダブルありで同パーティの諸氏には「そんなに甘くないよ」と言われ益々体が硬直したことが思い出される。パーティ終了後に私の居住している近くで、成田氏、小林氏、佐藤氏と共に反省会を行うことになり、真夜中まで酒とカラオケで会津弁を交えて楽しい二次会を過ごした。会津の人間は皆元気である。六十才ともなれば、エネルギーに満ちてクラブをしゃにむに振廻す若いプレイヤーとの間に体力差を生ずる事は否めないし、飛距離でかなうはずがない。飛ばない分は安定したショットとショートゲームの正確性で今後も補う様努力したい。本年秋季に開催される第十三回大会を目指し、また永久出場を目標として日頃練習を積み、体力作りに励んで行こうと思う毎日である。



東京会工会常任幹事 田場川 善雄 (27年M卒)

ふるさとを想う

旧盆の帰省は、いつも真夏の暑い時で、交通渋滞を耐え数時間もかけて東北道から磐城道に入り、いくつかのトンネルを抜けると、目の前に磐梯山の端麗雄大な姿が飛び込んでくる。石川啄木の歌「ふるさとのやまに向ひて言うことなし ふるさとの山はありがたきかな」のとおりです。私の姓は「田場川」で珍しいとよく言われ、お国はどこですかときかれます。福島県の会津ですと答えますと、多くの人は「ふるさとがあつていいですね。会津はいいところですね」と言われます。「会津のよさは酒の良さ」のCMもありますが、歴史のある観光地であり人情の良さなども評価されていると思えますが、自分のふるさとが褒められることは嬉しいものです。良

いふるさとのあることを感謝し、ふるさとの自然環境がいつまでも破壊されることがないように祈りたいと思えます。私はいま古希を前にしてふり返れば、会工を卒業後五十年になり、半世紀を経てしましました。まさにふるさととは遠くにありて想うものになりました。さて、東京会工会は会員資格について改革を行い、任意加入団体になりました。会員数は減ったものの、事業や財政面ではプラスになったと思います。人それぞれに価値観の違いもありますが、私なりに東京

会工会の意義を考えてみたいと思います。我々が二十才前の感受性の強い時期に、会津の各地から集い、ともに学んだ会工は創立百周年を迎えます。質実剛健の伝統がある校風は、我々の人格の形成に何らかの影響を与えていると思えますが、社会に出て働けるために色々な事を得た場であったことは確かです。また、人間は人とのつながりから離れては暮らせませんが、先輩、後輩、同級生との交流が出来たことも幸いなことです。東京会工会は仕事には直接関係ありませんが、ふるさとを考えるよりどころの一つと思つています。同郷の者が偶に顔を合わせ、元気でいることを確認し励まし合う機会ではないかと思えます。そしてその原点となる母校の近況を知り、さらなる発展を願う純粋な気持ちは誰でももっていると思えます。夏の高校野球で会工が勝ち進んでほしいと念じ新聞を開くのもその表れでしょう。

私は旧盆の帰省の際に会津若松市内を車で廻り、町並みの変化を感じるとともに、夏休で誰もいない会工の門に入り、玄関の校章や時計、校歌の碑を見て、母校の発展を祈念するとともに、自分自身も何か励ましをうけるような気持ちになります。最後に、東京会工会の定例行事では一番人気があつた「いも煮会」が、会場の都合で残念ながら中断していますが、ふるさとの味である鯿と饅頭の天麩羅を食べ、会津の酒を酌み交わし、無礼講で団欒する楽しみを早く復活出来ることを願っています。また、非常に厳しい状況の中で、会工の創立百周年事業に携わっておられる方々に感謝を申し上げます。

平成13年度東京会工会総会出席者

日時：平成13年6月23日(土) 場所：上野精養軒

(敬称略)

〔御来賓〕 会津工業高校校長 根本 健作
 会工同窓会会長 吉田 一栄(20K)
 東海会工会副会長 水野 正雄(25K)
 近畿会工会会計監事 長谷川雅之(26C)
 同窓会事務局 鈴木長九郎(35C)
 " 梨子本 傑(41K)

〔会 員〕

- | | | | | |
|------------|------------|------------|-------------|------------|
| T 9 佐々木忠平 | K 20 万澤 和禮 | C 17 渡部幸四郎 | M 28 佐々木三千夫 | E 32 本多 幸夫 |
| 16 押山登喜男 | 20 柴山 景介 | 23 秋山 勇 | 28 佐藤 幸弥 | 33 五十嵐邦雄 |
| 25 板橋 桂 | 21 小野 昭 | 25 石見 勝雄 | 33 大澤 賢二 | 40 星 陽一 |
| 27 村岡 司國 | 30 坂本 一望 | 25 歌川 晴雄 | 33 後藤 徹 | 42 佐瀬 彰 |
| 31 猪俣 和男 | 30 佐藤 新市 | 25 加藤 昭八 | 38 伊藤 孝行 | 42 田中 健一 |
| 34 石綿 弘 | 30 加藤 実 | 25 赤津 仲雄 | 39 古見 四友 | |
| 34 勝俣 忠夫 | 32 岸 宗男 | 27 秋山 利喜 | 39 渡部 武弘 | A 28 樽川 明雄 |
| 34 小池 清夫 | 33 五十嵐清夫 | 29 岡島 文弘 | 40 大原 雄三 | 28 渡部 保男 |
| 34 小林 忠夫 | 33 加藤 修次 | 30 国井 成夫 | 40 杉原 努 | 30 角田 至啓 |
| 34 小十嵐 勲 | 33 出羽 重夫 | 30 小町谷昌宏 | 40 鈴木 邦男 | 31 渡部 義雄 |
| 34 大島 諒三 | 33 玉川 進 | 31 秋山 利光 | 40 戸野部武彦 | 31 大矢 隆 |
| 34 佐々木 粂昭 | 33 成田 正明 | 33 金川 和也 | | 32 金子 昌輝 |
| | 33 渡部 貞衛 | 33 桑原 優 | F 45 大木 広 | 32 木村 幸弘 |
| L 20 大川原 薫 | 33 渡部 善七 | 33 長谷部 博 | E 26 管家 忠平 | 32 宮森 健介 |
| 21 鵜川平四郎 | 34 荒井 士郎 | | 27 佐藤 達也 | 33 澤里 勝人 |
| 31 秋山 常雄 | 34 小林 智 | M 23 諸橋 栄輔 | 27 新藤 健次 | 35 五十嵐昭夫 |
| 35 芳賀 勝義 | 34 櫻井 靖久 | 26 中野 義正 | 28 西川 清次 | 39 浅井 国明 |
| 39 佐藤 功 | 34 辺見 輝夫 | 27 池田 節雄 | 29 坂内 寿等 | 41 高橋 邦明 |
| 41 浜村 伸二 | 34 堀田 耕 | 27 川島 保 | 31 金作 進 | |
| | 39 石本 清八 | 27 田場川善雄 | 32 岡村 進 | |
| K 20 岸 傳三 | 47 武藤 政明 | 27 舟田 昭夫 | | |

出席者 102名
(来賓6名含む)



東京会工会副幹事長
田中 健一
(42年E卒)

東京会工会会員登録の
意思確認実施

東京会工会は先輩諸兄のご努力により、九十二年もの長きに渡り継続されている由緒ある同窓会であります。そのような会を私自身が知ったのは、卒業二十四年目の平成三年でした。同級生からの誘いでした。近年では新卒業生の同窓会入会式で東京会工会をはじめ、各地区会工会の紹介をして頂いております。しかし、新卒業生からの入会問い合わせ等は殆どありません。

会運営は年会費納入者が少ないことから大変苦勞しており、このほど執行部では、経費削減のため、印刷・通信費を見直すことにしました。

平成十三年までの卒業生は約二万四千四百名。そのうち、関東圏にお住まいの方は約四千三百名おられます。その方々への総会案内の発送は千三百通。そのうち新規発送は一割強。出欠の返事を下さる方は三割返事のない方は六割、残り一割は転居されていきました。会費納入者はそのうち二割。これらのことから、経費節減を図るため、東京会工会会員登録の意志があるか確認することにしました。対象は関東圏、及び静岡・山梨の一部の方々とし、過去に案内拒否をされた方、及び住所が勤務先となつていらっしゃる方を除いた三千二百余名全員に東京会工会会員登録意思確認のアンケートを発送しました。その結果は次の表の通りです。

卒業学科 科 名	名簿登録		会員登録				意志確認(H13.03)				転居	返信
	記載	会員	発送	継続	新規	将来	拒否	不明	他界			
染織・繊維	296	29	214	28	1	8	29	8	3	0	137	
漆工・工芸	235	13	198	12	1	3	16	21	1	0	144	
インテリア	47	0	8	0	0	0	0	1	0	0	7	
農業・林業	539	63	469	55	8	8	32	55	6	0	305	
セラミック	86	0	25	0	0	0	2	11	0	0	12	
応用・工機学	544	64	477	57	7	15	60	38	12	0	288	
化学工学	317	1	177	1	0	4	15	46	0	0	111	
機 械	775	72	592	63	9	20	79	50	8	1	362	
精密機械	122	5	100	4	1	2	4	6	0	0	83	
電 気	590	62	475	57	5	21	56	45	1	0	293	
電 子	242	3	140	3	0	5	8	28	0	0	96	
建 築	388	47	309	41	6	4	21	15	1	0	221	
デザイン	24	1	22	1	0	1	4	0	0	0	16	
情報技術	38	0	8	0	0	0	0	0	0	0	8	
電気工事	5	0	5	0	0	0	0	1	0	0	4	
溶 接	4	0	4	0	0	0	0	2	0	0	2	
車両整備	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
合 計	4254	360	3225	322	38	91	323	327	32	1	2091	

《室井前会長表彰される》

平成十四年一月二十五日、日本黒蝶真珠輸入協議会より、室井前会長が、東京・お台場ホテルで『黒蝶真珠アニバーサリーフェア フレンチ×ポリネシア(タヒチ)での養殖成功四十周年記念パーティー』で感謝状と記念品が贈呈されました。

黒蝶真珠の養殖は戦前から国内外で取り組まれていましたが、室井前会長がタヒチで成功し、現在年間生産量が六〇〇万個を超える迄に成長産業になったためです。

(毎日新聞平成十四年二月十五日掲載より)

平成13年度年会費納入者一覧

(平成14年3月31日現在)

S09T	卒年	氏名	S30K	卒年	氏名	S27C	卒年	氏名	S29M	卒年	氏名	S32E	卒年	氏名
S16T		佐々木忠平	S30K		佐藤新市	S29C		秋山利喜	S30M		物江弥	S32E		針谷裕之
S16T		押山登喜男	S31K		松本展	S29C		岡島文弘	S33M		山川孝	S32E		本多幸夫
S23T		五ノ井清一	S32K		古川征一	S29C		田巻忠雄	S33M		大澤賢二	S33E		松永信之
S23T		折笠昭	S32K		清水悦美	S30C		物江宗雄	S33M		後藤徹	S33E		五十嵐邦雄
S23T		目黒道男	S32K		岸宗男	S30C		国井成夫	S33M		渡部功	S33E		岩澤毅
S24T		新田治夫	S33K		五十嵐清夫	S30C		小町谷昌宏	S34M		渡部六郎	S34E		星敏弘
S24T		室井忠六	S33K		加藤修次	S31C		秋山利光	S34M		江川誠二	S35E		神誠喜
S25T		板橋桂	S33K		出羽重夫	S32C		鈴木八郎	S34M		遠藤赳	S36E		堀雅宏
S26T		本間至	S33K		玉川進	S33C		穴澤利	S34M		齋藤健夫	S37E		岩淵正三郎
S27T		村岡司國	S33K		成田正明	S33C		金川和也	S34M		玉川孝	S40E		星陽一
S29T		相田一夫	S33K		長谷川勝人	S33C		桑原優	S34M		中村賢次	S42E		風間洋治
S29T		荒木靖夫	S33K		渡部貞衛	S33C		長谷部博	S36M		鈴木新二郎	S42E		佐瀬彰
S30T		長谷川常雄	S33K		渡部善七	S34C		遠藤信孝	S37M		室井康男	S42E		田中健一
S31T		千葉勝夫	S34K		荒井士郎	S34C		小桧山国雄	S38M		秋山潔	S44E		穴澤衛
S34T		石綿弘	S34K		小林智	S34C		矢沢健一	S38M		伊藤孝行	S50E		浅川真司
S34T		勝俣忠夫	S34K		近藤祐司	S35C		秦孝夫	S38M		川井秀男	S57E		赤羽憲彦
S34T		小池清	S34K		櫻井靖久	S37C		佐藤武	S39M		古見四友	S40D		大越則道
S34T		小林忠夫	S34K		辺見輝夫	S39C		加藤正夫	S39M		渡部武弘	S40D		芳賀博
S34T		五十嵐勲	S34K		堀田耕	S39C		皆川平	S40M		大原雄三	S25A		石原貞夫
S34T		大島諒三	S35K		神林宏	S42C		要光夫	S40M		桑原勝義	S25A		坂内六郎
S34T		日下部敏勝	S35K		宮下久	S47C		渡部誠二	S40M		杉原努	S27A		鈴木茂
S34T		佐々木栄昭	S36K		加藤邦男	S49C		折笠昭	S40M		鈴木邦男	S28A		佐藤要三
S35T		福田弘司	S37K		白井洋二	S49C		小林栄	S40M		戸野部武彦	S28A		樽川明雄
S41T		猪俣和男	S39K		石本清八	S52C		川嶋静雄	S45M		渡部俊夫	S28A		林紹雄
S20L		大川原薫	S40K		松坂凌一	S16M		山田定江	S61M		高塩稔	S28A		渡部保男
S20L		山田登	S43K		山田利廣	S17M		中田宏司	S40F		綿引重	S29A		杉本次雄
S21L		鶴川平四郎	S44K		高木博康	S17M		二瓶文吉	S42F		佐藤昭次	S30A		鈴木清
S25L		穴沢三郎	S45K		谷沢豊	S17M		渡部一恒	S45F		大木広	S30A		角田至啓
S27L		星野健	S47K		武藤政明	S19M		稲村和夫	S26E		遠藤文夫	S30A		渡部義雄
S31L		秋山常雄	S09C		安達公彦	S20M		鈴木正則	S26E		管家忠平	S31A		大矢隆
S32L		藤田明雄	S13C		江川義治	S23M		諸橋栄輔	S27E		板橋亨	S31A		酒井兼三
S32L		星博明	S15C		原忠伍	S24M		慶徳一郎	S27E		加藤正彦	S31A		角田新作
S35L		芳賀勝義	S16C		遠藤信夫	S24M		渡部幸男	S27E		佐藤達也	S31A		中丸正弘
S39L		佐藤功	S16C		渡部上	S24M		飯塚家思	S27E		新藤健	S32A		飯沢建一
S40L		佐藤孝士	S17C		渡部幸四郎	S25M		高橋敏夫	S27E		清野吉男	S32A		小椋義昂
S41L		浜村伸二	S18C		佐藤弘次	S25M		古川康夫	S28E		大友昭三郎	S32A		金子昌輝
S42L		大竹治郎	S20C		安部高明	S26M		太田幸造	S28E		加藤格司	S32A		木村幸弘
S4K		今井喬	S20C		郡司輝良	S26M		木村孝	S28E		高橋和男	S32A		小林敏孝
S14K		塩谷賢二	S21C		郡司亮	S26M		秩父清	S28E		西川清次	S32A		宮森健介
S17K		林貞吉	S21C		山口悌世	S26M		中野義正	S28E		武藤亨	S33A		澤里勝人
S20K		青柳啓治	S23C		秋山勇	S27M		伊勢亀孝明	S28E		森信雄	S35A		五十嵐昭夫
S20K		赤羽恒夫	S23C		藤田洋	S27M		池田節雄	S28E		山浦國男	S36A		永井克哉
S20K		岸傳三	S24C		蓬田光雄	S27M		橋本修	S29E		秋山尚	S37A		齋藤弘之
S20K		柴山景介	S24C		佐藤和男	S27M		江花源吉	S29E		千葉公胤	S39A		浅井国明
S20K		田場川與咲	S24C		萩原進	S27M		川島保	S29E		坂内寿	S39A		芳賀進
S20K		万澤和禮	S25C		石見勝雄	S27M		佐藤芳也	S30E		小林泰彦	S39A		渡部春好
S21K		小野昭	S25C		歌川晴雄	S27M		田場川善雄	S31E		渡部一雄	S40A		星昌勝
S21K		樽川義夫	S25C		大腰久善	S27M		坂内哲雄	S31E		磯谷勝昭	S41A		高橋邦明
S23K		小林泰夫	S25C		加藤昭八	S27M		舟田昭夫	S31E		金作等	S42A		板橋三千男
S27K		室井正男	S25C		笠間龍郎	S28M		佐々木三千夫	S31E		佐藤光一	S42A		佐藤芳昭
S27K		湯田俊章	S25C		赤津仲雄	S28M		佐藤幸弥	S31E		鈴木忠恵	S44A		室井茂
S27K		渡部藤二	S25C		原田四郎	S28M		高梨高	S32E		大竹俊二	S45A		菅家重夫
S29K		五十嵐政義	S25C		古市義男	S29M		菊地勲	S32E		大堀孝雄	S46A		内芝良吉
S30K		村上謙	S25C		三浦正裕	S29M		田場川進	S32E		岡村進	S45デ		宮河悦子
S30K		加藤実	S26C		増田直巳	S29M		長谷川賢三	S32E		菅家忠佐			(敬称略)
S30K		坂本一望	S26C		吉田實	S29M		武藤正義	S32E		小桧山昇			計 278名

柳津・虚空蔵尊から



東京会工会副会長
板橋 桂
(25年丁卒)

会津柳津と言えば虚空蔵様だろう。正しくは臨濟宗妙心寺派靈巖山福満虚空蔵尊圓藏寺。一般には圓藏寺奥之院弁天堂を含め「虚空蔵様」と言っている。

縁起によれば、弘法大師と名僧徳一大師により大同年間に開創したとされている。茨城県東海村の大満虚空蔵尊と千葉県天津小湊の能虚空蔵尊同じ縁起によるものと説明され、千二百年におよぶ歴史を誇り、重文を含めた文化財が沢山ある。

大同年間、会津では、病脳山(わづらしやま)の通り磐梯山が噴火し惨状を呈していた。また、東北に多くの伝説信仰を残す坂上田村麻呂が、最後の征夷大將軍に任命され行動している。京は平安時代の初期、遣唐使として最澄や空海も活躍した。

徳一大使は歴史書にも登場し、東国での拠点常陸筑波山と奥州会津として、関東北部から東北南部にかけて活躍した様子が徳一伝説・信仰として伝えられ、特に会津では、恵日寺・勝常寺・圓藏寺等多くの寺院開創者と伝えられて、美術文化財が沢山ある。草創から眞言宗と考えられるが、至徳元年(一三八四)義乗法師は僧規の乱れ、伽藍の荒廃を嘆いて若松興徳寺三世和尚に嗣法して、臨濟宗に改宗、興禪開山とした。その後二、三度にわたって改宗があったが、寛永四年(一六二七)南宗和尚の代に臨濟

宗妙心寺派に属し宗旨を確立してより現在に至っている。

弘法大師に縁起する福満虚空蔵尊の靈驗はきわめてあらたかたで、信長・英吉・秀次らは特使を遣わして深く尊崇したという。

この時代は探鉱・鉱山採掘技術が発達して、金銀の産出量が著しく増加した。江戸時代までの寺院は、地層・地理学的知識もあり、鉱山・温泉・水脈・治水等は、弘法大師信仰伝説に非常に多い。虚空蔵尊東方に永祿二年(一五五八)岩代輕井沢銀山発見と歴史に記録されている。この様に現実的靈驗もあったようだ。

会津歴代領主は、寺領二〇〇石と山林荘田など寄進し尊信した。特に徳川將軍家では永久祈願所として一〇万石の待遇とし、五年に一度任職を江戸に招き謁見を許された。寺宝に六代將軍家宣公、七代將軍家継公の「白綾之生着」があることから、由緒がうかがえる。このことから、葵の紋の印籠に虚空蔵尊入りの交通安全のお守りもそれなりにうなづける。

ただのみ川も開発が終わり、只見川ラインコースはドライブが非常によい。小出から国道二五二で破間川を上り、六十里越え、田子倉湖から只見川下りはすばらしい。虚空蔵尊を参拝したら西山温泉泊まりが良い。湯量はもちろん、この泉質は他にない。柳津から只見川と阿賀川合流地点に進み、そこから下るコースも佳境である。是非おすすめしたいコースである。

会津柳津は桐の里である。五月終わりの頃、桐の花が咲く。遠くなる様な静かな里に桐花を求めると良い。淡紫色の気品のあたるたずまいや佳芳は、ここだけである。

一円也の携帯電話

岡村 進
(32年E卒)

お酒を飲むかと聞かれれば迷わず、たしなむ(?)程度と答える。嫌いなから三百六十五日、休肝日なしの晩酌を楽しんでいる。

後ろめたさも思いつつも最近の新聞で「少量なら毎日でも大丈夫」という学説を読んだ。その新説、我が意を得たりと肝に銘じることにした。

実は呑んべえの話ではなく友人との酒席で高年者の定番として、若い人の話題になりメール(携帯電話機能)だったら話せるのに、ある県の成人式に出席した一部の新人の様に他人の話を聞けないのは、携帯電話のせいかもしれない等々。

そんな話の中で「メールができる?」の問いに「携帯電話を持ってないし、手紙のやりとりの方が好きだから」と負け惜しみ弁解。

昔からメール手紙と覚えていたのに、最近では親指作業をその様に言うらしい。

元来私は、携帯電話を軽蔑していた。最近では大分減った様だが、以前は新幹線に乗ると、後ろも・前も・横の人も、そしてレストランでは食事中であれ、辺り構わずまくし立てている人がいて、まったく迷惑な話であった。せめて最低のルールだけは守って欲しいなあと思っていた。

静かでないという理由の他に、携帯なるものの通話料はべらぼうに高く、実際必要な災害時には通じなくなると信じ、それに電磁波の影響も心配だった。

でも、頑固に拒否していた携帯電話を携帯する事になり、その事で弁明しなければならぬはめになってしまった。節を曲げたのには理由がある。

ある事情からiモードなるものを調べていたら、なんと契約手数料込みで金一円という携帯電話に巡り合い、その値段にびっくりしながら一円で購入してしまった。今のところ生れたばかりの赤ちゃんから寝たきり老人を含め全人口の半分程が持っている由、それは小学生の一部から大人の七割くらいが携帯している事になる。

遅時きながらデビューしたが、批判をやるほど信念(?)を失った訳ではない。しかし使ってみる確かに便利である。訪問先の付近で道に迷い公衆電話もない時、まさしく地獄に仏である。

ただ、案内書が初めてのものに対し、少々分かりにくいと思っているのは私だけだろうか?

片仮名と、そして専門家にとっては当然の事として書いてくれない部分が多い。実は、自分でも情けないくらいカタカナ文字に弱い。

いつも世の中の「新しさ」から、こぼれ落ちていっていると思われそんな寂しさを味わいながらも、簡単な日本語で書いてくれればと腹が立つ!

それも実力の内と考えれば、そんなに目くじらを立てることもないかと自分を慰めている次第である。